



幼児教育センターだより

富山県教育委員会 教育みらい室 小中学校課
富山県幼児教育センター

第2回アドバイザー研修会

【実施日】7月8日（月）

【参加者】幼児教育スーパーバイザー、
幼児教育アドバイザー

【内 容】これまでの訪問研修の振り返り
幼児教育推進リーダー育成研修の打合せ
＜協議より＞

○保育者にとって学びのある研修会とするために

公開保育後の事後研修会では、保育者同士の対話が生まれるように努めています。座席を工夫する、小グループで話し合う、問い返す、話題を広げるなど、明日の保育につながる対話になるよう工夫しながら進めています。

○園にとって学びとなる訪問研修とするために

訪問研修でお伺いした際には、「こんなことを試してみたい」と思える、より魅力的な実践につながるヒント、アドバイスを心がけています。

○訪問研修は、他の園の保育から学ぶチャンス

今年度は、訪問研修に近隣園・所や小学校をお誘いしてほしいとお願いしています。お近くの園で訪問研修があったら、ぜひ保育を参観し、できれば事後の研修会にもご参加ください。いろいろな園の保育を見て、気付いて、学んで、そして、自園の保育に生かしてほしいと思います。



幼児教育・小学校教育の円滑な接続推進研修会

【実施日】7月30日（火）

【参加者】幼児教育施設、小学校、市町村行政等より約200名

【講 師】福井大学大学院福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科
(連合教職大学院) 教授 岸野 麻衣 氏

【演 題】「子どもの学びと育ちをつなぐために」

滋賀県彦根市のモデル校区の例を基に、お話していただきました。

○単なる「交流」ではなく、それぞれの学びが深まる「接続」へ

- ・子どもにとって必要感があるから確かな学びになる。
- ・幼保小ともどれだけ子どもと共に活動を展開しているか。

○「幼小連携」から「幼小接続」へ

- ・「小学校に適應するための」スタートカリキュラムではなく、「主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を作り出していくための」スタートカリキュラムづくりを意識する。
- ・小学校に入学した子どもが「先生が求めていることを考える」「言ってよいことと悪いことを学ぶ」「どうせ言っても無駄だとあきらめることを学ぶ」のではなく、「学校はしたいことが実現できる場」と感じることができるよう子どもとかわっていく。
- ・情報の申し送りではなく、保育・授業を見合って、子どもの姿を真ん中に語り、育ちを共有する。



幼保小の円滑な接続について

—第2回市町村担当者連絡協議会から—

幼…幼児教育
※保…保育
小…小学校教育

を表します。



【実施日】7月16日（火）

【参加者】市町村幼児教育主管課担当者（各市町村1名）

市町村教育委員会（教育センター）幼児教育担当者（各市町村1名）

【内 容】市町村における幼児教育と小学校教育の接続の現状や取組について、情報交換や意見交換を行い、今後の市町村の取組の方向性について見通しをもつ。

- ・講演（富山県幼児教育スーパーバイザー 新タ佳子）
- ・概要説明（富山県幼児教育センター 指導主事）
- ・市町村における幼児教育・小学校教育の接続に関わる取組の状況や今後の課題等について（グループ協議）
- ・グループ討議の内容共有(全体)



〇県では、令和10年度から、県内の全ての市町村において「持続的な架け橋期のカリキュラム改善会議」を行う体制が整うように、令和6年度を準備期間と考えて幼保小接続に関わる担当者連絡協議会を行いました。現在、市町村の取組はそれぞれであり、また取組に対する認識にも違いがあります。まずは、それぞれの市町村の実情を理解する必要があると考え、参集の連絡協議会を行いました。当日は悪天候にもかかわらず、遠方の市町村からも参加をいただきました。ありがとうございました。

【8・9月の主な予定】

8月

2日（金）保育技術協議会

7日（水）中堅教諭研修会

9日（金）幼児教育推進リーダー活用部会

21日（水）幼児教育施設訪問等研修部会

23日（金）幼児教育研究協議会

26日（月）幼児教育推進リーダー育成研修会
（公開園研修@下堀こども園）

9月

3日（火）新規採用教員研修会

25日（水）新規採用教員研修会

30日（月）幼児教育推進リーダー育成研修会
（公開園研修@ひらきこども園）

★新タスーパーバイザーから今月の一言★

架け橋期のカリキュラム作成とは？

架け橋期とは、5歳児の1年間と小学1年生の1年間、あわせて2年間をさします。よって、架け橋期のカリキュラムはこの2年間を見通したカリキュラムです。

どの園・所、学校にもすでに年（月・週）間計画があります。現在、それらの多くは、それぞれの園・所、校で作成したものです。幼保での学びが小学校につながるよう、互いに計画を見合い、学びを繋げる機会をもち、それを既存の計画に生かして子どもの学びをつなげる。こうすることで架け橋期のカリキュラムを作成することができます。

